

## 第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会
------------------

### ②評価調査者研修番号

SK18087
神機構-82
神機構-456

### ③施設名等

名称：	春光学園
施設長氏名：	児山 秀一
定員：	67名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1945/12/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人春光学園
職員数 常勤職員：	36名
職員数 非常勤職員：	6名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	14名
有資格職員の名称（イ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（ウ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	10名
有資格職員の名称（エ）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	里親支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	職業指導員、栄養士、看護師
上記有資格職員の人数：	各1名
施設設備の概要（ア）居室数：	幼児寮1、男子学童寮3ユニット、女子学童寮3ユニット
施設設備の概要（イ）設備等：	多目的室、医務室、相談室、静養室、心理室、会議室、洗濯室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

### ④理念・基本方針

<p>&lt;園 誓&gt;</p> <p>1. 私達は、雨にも風にも負けない子どもです。</p> <p>1. 私達は、楽しく働く人になります。</p> <p>1. 私達は、隣人を愛する人になります。</p> <p>&lt;施設の運営方針&gt;</p> <p>学園は、創立者の精神を尊重し、法人と施設が一体となって、社会的養護の一翼を担う児童養護施設として、要養護児童等の多様なニーズを積極的に受け止め、児童の人権擁護と最善の利益確保に向けて、適切な運営とサービスの提供に努めます。</p> <p>サービスの提供にあたっては、子どもの意向を把握し、子ども一人一人に応じた適切な支援に努めるとともに、児童相談所や学校等と連携して、家庭状況に応じた家庭環境調整や家族再統合の取り組みを積極的に進めます。</p> <p>子どもに対し、いかなる理由があっても体罰や暴言は行わず、被措置児童等虐待を許さない安心安全な施設作りを目指します。</p> <p>地域社会の一員としての自覚を持ち、地域社会との連携を積極的に図っていきます。</p>
---

### ⑤施設の特徴的な取組

### ①学習支援

市や後援会の支援、ボランティアの協力を得ながら、子どもたちの基礎学力不足と学習に取り組む姿勢を養うため、一人ひとりに対応した個別学習支援の場を設定している。子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいる。高校受験を控えた子どもうち、市内の塾に通っている子どももいる。

### ②ライフストーリーワークの取り組み

子どもたちが現在や将来の自分自身の生活を前向きに捉えて生活していくことを支援するため、児童相談所のケースワーカーや保護者と連携をとりながら、ライフストーリーワーク（自分の生い立ちの整理）に継続して取り組んでいる。自分の生い立ちをなかなか受け入れられない子どももいるが、子どもたちは職員と一緒に、成長の過程を振り返ったり、将来について話をしている。

### ③キャリアカウンセリングの実施

子どもたちの自立を支援するため、後援会や大学の専門の先生の協力を受け、どのような大人になりたいか、どのような方向に進みたいか、定期的に話し合いの場を設けている。社会の中の一員としての自分を考えていくキャリアカウンセリングに継続して取り組むことで、子どもたちは自分のやりたいことを確認している。

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/4/7
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2021/2/3
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

### ⑦総評

○昭和20年設立の歴史のある園で、大舎制の建物を工夫して、1階に幼児寮、2階に男子学童寮3ユニット、3階に女子学童寮3ユニットを整え、子どもたちの養育・支援にあたっている。完全ユニット化や小規模化、地域分散化、高機能化などを視野に入れ、他施設への職員派遣研修を行っている。

○子ども一人ひとりに様々な課題がある中、市内には障害児施設がないため、発達障害や知的障害など、障害のある子どもの入園も多い。そのため課題も多岐に涉り、職員が一人ひとりの子どもに向き合い、子どもの将来を見据えた支援を提供している。学習支援やライフストーリーワーク、キャリアカウンセリングなど、具体的な取り組みを行っている。

○子どもアンケートを実施する他、ユニットごとに「子ども会議」を開催し、子どもたちの意見や要望、満足度を聴いている。

また、今年度より第三者委員に子どもたちのヒアリングに関わってもらっている。

○自分の欲求や訴えを言葉ではなく、怒りでしか表現できない子どもが多い。他の子どもや職員に危険がある場合は、すぐに危険を回避するよう対応し、子どもが落ち着いてから、じっくり話を聴くようにしている。また、子どもの担当も副担当を置き、自分から意見を言うことが少ない子どもの声をできるだけ聴くように配慮している。

○心理士が自立支援計画などで心理支援が必要とされた12～13人の子どもの心理療法を定期的に行っている。心理士の子どもへの関わりは面接だけでなく遊戯療法なども用いて子どもの心理的ケアを行っている。

○栄養士と食育委員会の職員が連携し、「家庭での食事経験が少ない子どもたちに、心も体も満たされるよう、食事を提供していく」ことを目標にして、日々の食事を提供している。子どもたちからはアンケートをとり、希望を献立に反映している。ユニット調理では、子どもと一緒に献立を決め、買い物や調理、後片付けを体験している。

○七夕や夏祭り、防災訓練など、町内会や地域の行事には、子どもたちと職員が積極的に参加している。今年度はコロナ禍で一時的に中止しているが、園庭や遊具を地域に開放している。後援会が10年程前に発足し、子どもたちの卒園支度金や奨学金、資格取得支援、学習支援などを行っている。

○看護師が医療機関と連携し、子どもたちや職員の健康状態を把握している。51名中37名の子どもが様々な疾患を抱えているため、市内の医療機関に定期的に受診している。服薬が必要な子どもが多く、看護師が薬を管理している。また、職員の健康診断では、多くの職員が健康に問題を抱えていることから、今後の対応が必須と捉えている。

○家庭支援専門相談員が、家族との連携をとっている。園の行事や幼稚園・学校の行事などを家族に連絡して、参加を促している。家族から子どもとの外出や外泊希望がある時は、家庭を訪問して、子どもが安心して外出や宿泊ができるかを事前に確認している。

○年齢に応じて退園後の生活を話し合っている。職業指導員が退園に向けたサポートを担当し、退園時には児童相談所や保護者との打ち合わせ、就職先との連携など、スムーズに生活を移行できるようにサポートしている。子どもたちの就職先には、職業指導員が定期的に電話をして、状況を確認している。

○地域の特性により、アメリカ海軍からの支援が75年間あり、年間を通して金品及び招待行事などの援助を受けている。また、里親担当職員を配置し、市の里親会の事務局を担い、里親に向けたイベントや相談を行っている。

### ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

各部門の職員が子どもの人権を尊重し、発達段階に応じた支援を行っています。その中で学習支援やライフストーリーワーク、キャリアカウンセリングプロジェクトなどの取り組みを実施して子ども達の自立支援を行っています。しかし、十分でない点もあり、今回の第三者評価の結果を真摯に受け止め、今後の支援に活かして参ります。

### ⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

（1） 理念、基本方針が確立・周知されている。

第三者  
評価結果

①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

園誓（1. 私達は雨にも風にも負けない子どもです。1. 私達は楽しく働く人になります。1. 私達は隣人を愛する人になります。）や支援目標は、ホームページや学園のしおり、パンフレットに記載し、保護者に周知している。小学生以上の子どもには、園誓を具体的にわかりやすく説明している。また、事業計画書に園誓を載せ、年度当初の職員会議で、園長から職員にあらためて内容を説明している。園誓は、多目的室にも掲示し、いつでも内容を確認できるようにしている。

## 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	

【コメント】

社会福祉事業全体の動向を把握するため、神奈川県児童福祉施設協議会や市の児童福祉審議会などに園長が参加して情報を収集している。会議に参加しないと、どうしても情報が入りにくくなるので、積極的に参加するようにしている。収集した情報は、主任以上が参加する運営会議や、全常勤職員を対象とした職員会議の場などで、園長から職員に周知している。また、理事会などでも状況報告を行っている。経営状況の細かい分析や園の今後のあり方の検討が、今回のコロナ禍で中断しているため、再び話し合いをはじめるとの予定である。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

現在、建物内を工夫し、ユニット化しているが、建物自体は大舎制のままである。今後10年以内の全面改修を目標にしているが、国の新しい社会的養育ビジョンがはっきりした段階で、具体的な計画につなげていく予定である。国や県、市の動向を把握するため、神奈川県児童福祉施設協議会や市の児童福祉審議会などに園長が参加して情報を収集している。今後の経営の課題として、人材確保や人材育成にも力を入れていく必要があると捉えている。

## 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】 10年以内の建物の全面改修など、中・長期の方向性は明確にしているが、国の計画の細部が不明確なため、国の動向に合わせて具体的な内容を検討していく予定である。また、園長が市の社会的養育推進計画の委員として会議に参加していることから、市の動向も確認しながら、今後の取り組みを進めていく予定である。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【コメント】 当該年度の計画を年度末に評価して、次年度の事業計画を策定している。児童定員の目標値についても示し定員の90%の確保を目標にしているが、措置施設であること、また、各児童相談所の状況も異なることから、目標通りには達成できない現実がある。中・長期計画の完全ユニット化を視野に入れ、昨年度より、他施設への職員派遣研修(3日間)を実施している。派遣研修に参加した職員は実践報告を行い、全職員で内容を共有している。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】 当該年度の計画を年度末に評価して、次年度の事業計画を策定している。新年度の事業計画は、園長が概要を作成し、主任以上が参加する2月の運営会議で内容を検討している。時間的な制約があり、全職員で検討することができないが、運営会議に参加する主任クラスの職員が現場の声をひろって、計画に反映できるようにしている。職員の業務分担については、園長が見直して毎年、作成している。策定した事業計画は、3月の理事会に諮り、4月の職員会議の場で職員に内容を説明している。		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	

- 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。
- 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。

【コメント】

事業計画はホームページに掲載し、保護者への周知を図っている。子どもたちには事業計画の周知は行っていないが、園内行事や招待行事は、子ども会議の中で説明したり、園内に掲示して周知している。子どもたちに配布する「生活の手引き」は、連絡事項に関するものが多く、計画の内容については口頭での説明が主になるため、今後は時期をみて、部分的にも説明をする必要があると捉えている。

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

養育・支援の質の向上に向け、毎年、自己評価を行い、第三者評価も定期的に受審している。自己評価は、ユニット毎に、また職種別に行い、全体で集約している。第三者委員はこれまで年2回、園の行事に参加してもらい、子どもたちの様子を確認してもらっていたが、今年度は子どもたちのヒアリングに関わってもらっている。ヒアリングの内容は、6月の職員会議で報告会を行い、養育・支援の改善につなげている。子どもたちの声は、すぐに対応できるもの（部屋の入口やタンスの改修など）は迅速に行っている。第三者委員による子どもたちのヒアリングは、今後も継続して実施する予定である。不定期ではあるが、外部講師を招いて研修会を開催し、質の向上に向けた取り組みを行っている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

評価結果に基づき、課題及び改善策を職員間で共有している。具体的な取り組みとして、これまで子どもたちにアンケートは実施していたが、年3回ヒアリングの場を設けたこと、子どもたちの持ち物を個人個人専用のものにしたことなどがある。取り組みの内容は運営会議の場などで検討し、自立支援計画につなげているが、すべてに対応できてはいないこと、振り返りが十分にできていないことなど、今後の課題も残っていると感じている。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○

- 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。
- 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。

○

○

## 【コメント】

園長自ら養育・支援の質の向上を心がけ、子どもたちの生活に配慮した取り組みを行っている。園で生活しているのは子どもたちで、子どもたちが中心であるため、日常生活の支援や進路の問題、生活の要望など、まずは子どもたちの声を聴くようにしている。子どもから直接、園長に相談に来ることも多い。園長の責任や役割は、「業務分担表」に定め、4月の職員会議で全職員に周知している。園長不在時は、副園長がその役割を担い、緊急時などに対応できるようにしている。また、法人の理事長も園の行事や後援会、招待行事と一緒に参加して、子どもたちにもよく声をかけている。

②

11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。

b

- 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。
- 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。
- 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。
- 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。

○

○

○

## 【コメント】

園長は関係法令を正しく理解し、法令の遵守を基本に職務にあたっている。職員に関係する法令などは、職員会議で園長が説明している。職員には、新型コロナの対策や人権問題などを伝えている。また、国や県が主催する、経営に関する施設長研修会に積極的に参加し、遵守すべき法令などの把握に努めている。

## (2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①

12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。

b

- 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。
- 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。
- 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。
- 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。
- 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。
- 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。

○

○

○

○

○

## 【コメント】

園長自ら、子どもの安心・安全を護る支援の向上に努め、子どもたちの進路支援などにも積極的に関わっている。子どもたちの進学や就職、アルバイトなどの情報提供を、職業指導員や担当職員と一緒にやっている。35年勤務の経験や、その中での地域との関わりの強みを活かすようにしている。卒園した子どもたちが相談に来ることもある。日常から職員の声をよく聴き、年1回、職員の意向調査と個別面接を行っている。

②

13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。

b

- 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。
- 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。
- 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。
- 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。

○

○

○

## 【コメント】

職員の配置人数が多くはないので、無理のない勤務となるよう、パートやアルバイトを雇用し、働きやすい環境作りを行っている。また、職員が担当業務を一人で抱え込むことがないよう、主担当、副担当を決めている。子どもの担当も副担当を置き、自分から意見を言うことが少ない子どもの声をできるだけ聴くように配慮している。今後の動向などの情報も、会議の場で職員に発信している。また、日常の支援場面や会議などで職員の声を聴き、運動会や委員会活動などに職員の意見を反映できるように努めている。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
<p>① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(5種別共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>法定で定められた専門職員を配置し、計画的な職員採用を行っているが、就職希望者は、どうしても都会地の勤務を望む人が多いため、新規職員の採用は厳しい現実がある。実習生を受け入れている学校にも、求人の募集を行っているが、応募は少ない。人材確保と育成の一環として、年1回、職員に意向調査を実施している。意向調査は毎年9月頃に行い、勤務継続の意向や希望部署、健康状態などを用紙に記入してもらっている。園長と職員の個別面接は、意向調査の結果を見て、悩みを抱える職員などを中心に行っている。個別面接は、堅苦しい面接にならないよう心掛けている。</p>	
<p>② 15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>園が期待する職員像は、特に文書では示していないが、子どもにやさしい対応ができること、子どもに共感できること、「これだけやったのに、何故できない、わかってくれない」など子どもから見返りを求めないことを、職員会議の場などで職員に伝えている。一般企業とは異なり、人事考課は難しい面が多いため、取り入れていない。意向調査などで把握した職員の声は、改善策につなげるようにしている。</p>	
<p>(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p>	<p>① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p>

<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

産休明けの職員は、できるだけ日中の勤務となるよう配慮している。職員の希望を把握するために、年1回の園長面接の他、必要時にいつでも気軽に話ができるようにしている。また、外部心理士による職員のメンタル面のフォローも行っている。職員からは時間外勤務の申請を出してもらっているが、休みの日や時間外にボランティアとして活動することも多く、すべてに時間外手当を支給できていないのが現状である。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

採用1年目、2～3年、中堅、それ以外の階層に分けて、「階層別研修」を定め、外部研修の受講ができるようにしている。外部研修の参加者は、研修担当職員が候補者をあげ、最終的には園長が決定している。個人の研修目標は考えているが、職員個々の目標設定は立てていない。職員一人ひとり、1年間を意識しながら、日々の養育・支援にあたっている。

② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎月、全職員を対象に、施設内研修を開催している。外部研修への参加も、研修計画に沿って行っているが、今年度はコロナ禍の影響でほとんどの研修会の開催が中止になっている。例年、それぞれの職員が年3回ほど、外部研修に参加している。また、外部講師を招き、ケースの見立てなどをテーマにして、年3～5回、研修会を開催している。

③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="radio"/>



(5種別共通)

スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。

【コメント】

スーパービジョン（対人援助者が指導者から教育を受ける過程）の体制は確立していないが、副園長と家庭支援専門相談員が、スーパーバイザー（指導者）の役割を担っている。新人職員には先輩職員が意識して関わるようにして、OJT（職場内の現任訓練）の体制を整えている。新人職員に対しては、家庭支援専門相談員が、4～6月と9～12月に、年2～3回、フォローアップ研修を行っている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

副園長を実習生受け入れの担当とし、オリエンテーションと反省会を行っている。実習生の受け入れは、年間計画を立てて実施している。実習後に就職につながったケースはこれまで1人だけだが、実習生は今後も積極的に受け入れていく予定である。また、担当した職員も、自分の業務の振り返りや見直しにつながる効果がある。社会福祉士の指導者資格を持っている職員もいるが、現時点では保育士の実習がほとんどである。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページに情報を公開する他、広報誌「後援会ニュース」を年3回（5、10、1月）発行し、園内や招待行事などの情報を掲載している。広報誌は900部ほど印刷し、児童相談所や後援会、行事の招待先、教育関係、医療関係、里親、町内会などに配布している。第三者評価結果も、ホームページから全国社会福祉協議会にリンクできるようにしている。また、第三者評価の受審時には、結果公表後に報告会を行い、職員が振り返りを行う機会を設けている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

「業務分担表」や諸規程にて、職員の役割を明確にして、適正な経営・運営ができるよう努めている。法人の会計などに関しては、監査委員による監査を受け、理事会や評議員会に報告している。これまで特に問題は上がっていないが、会計事務所による指導や、市の監査による指摘事項などがあれば、迅速に対応し、改善につながるよう心がけている。

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p>(児童養護施設)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	<p>b</p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	
<p>七夕や夏祭り、防災訓練など、町内会や地域の行事には、子どもたちと職員が積極的に参加している。地域の子どもの人数が減少していることから、地域から園の子どもたちの参加呼び掛けがあることも多い。職員のボランティア協力の依頼もある。今年度はコロナ禍で一時中止しているが、園庭や遊具を地域に開放している。また、地域の冠婚葬祭などでは、園庭を駐車場として使用してもらっている。園長が地区社会福祉協議会の委員として会議に出席し、地域との繋がりを深めるとともに、園の掲示板に後援会の広報誌を掲示して、園の情報を公開している。後援会は10年程前に発足し、子どもたちの卒園支度金や奨学金、資格取得支援、学習支援などを行っている。</p>	
<p>② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p></p> <p></p>
<p>【コメント】</p>	
<p>受け入れ担当を副園長として、積極的にボランティアの受け入れを行っている。地域の特性により、アメリカ海軍からの支援が75年間あり、年間を通して金品及び招待行事などの援助を受けている。定期的に学習のボランティアや書道のボランティア、ピアノのボランティアなどが活動している。園の行事開催時にはボランティアを招待しているが、今年度はコロナ禍で、行事が実施できない状況にある。ボランティアを希望する方には、子どもたちとの関わり方などを説明しているが、今後はボランティアの質の向上を高める研修会の開催などの取り組みが必要と考えている。</p>	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
<p>① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	

児童相談所や学校、医療機関などの関係機関とは、定期的に情報共有に努め、カンファレンスを開き、地域のネットワークの構築に努めている。園長が小学校の評議員を担い、関係を強化している。発達障害や知的障害を抱える子どもが多いことから、学校内外のパトロールを職員が行っている。定期的にパトロールを行うことで、教員だけでなく、子どもたちが安心して学校生活を送っている。地区民生委員児童委員協議会などの見学も、年3～4回受け入れている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

園の掲示板や広報誌などで、園の行事を案内し、地域の方々の参加を呼び掛けている。また、子どもたちと職員が町内会の行事や地域のイベントに参加する他、子どもたちと職員が一緒になって、地域のゴミ拾いなどを行っている。地域との関わりを積極的に行っていく中で、地域が抱える課題などを把握している。地域の中に子どもが少なくなっていること、防犯や防災の問題があることなどが上げられ、街灯を増やすなどの働きかけを行っている。園長が地区社会福祉協議会の委員を担い、地域福祉の向上に努めている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

里親担当職員を配置し、市の里親会の事務局を担い、里親に向けたイベントや相談を行っている。年2回、里親の懇親会や、子どもとの関わり方や人権問題の研修会を開催している。園庭の開放など、地域に向けた社会資源の提供を行っているが、地域との関係が希薄になっている現状の中、町内会や地域と一緒に、関係性を築いていくことがこれまで以上に必要と捉えている。園の行事への参加呼び掛けも、工夫が必要と考えている。

### III 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者  
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

新人職員の採用時には、採用前に1週間、新人研修を行い、理念や基本方針を説明している。毎年、「職員の手引き」の見直しを行い、倫理綱領を載せるとともに、子どもの側に立った養育・支援の基本姿勢を明示している。子どもへの支援にあたっては、寮舎会議や運営会議の中で、定期的に状況把握や評価、見直しを行い、運営会議の決定事項は、職員会議で報告し、子どもたちに統一した支援を提供できるよう取り組んでいる。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちにアンケート調査を実施し、その中でプライバシーに関する意見も聴取している。子どもの年齢や発達状況に応じて、可能な限り個室や少人数の居室を提供している。日々の支援場面では、子ども一人ひとりの生活空間を大切に、子どもたちには他の子どもの部屋には入らないことを伝えている。面会に来る保護者にも、同様の説明を行っている。また、見学時にも部屋の中は見せていない。子どもたちには、「生活の手引き」を用意し、問題が起きた時は、「生活の手引き」を基に内容を確認している。「職員の手引き」にも、子どもたちのプライバシーを保護することを記載している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもや保護者など入園希望者に対しては、必要な情報を提供するとともに、「生活の手引き」により、生活のルールや面会の決まり、園のルールなどを丁寧に説明し、遵守してほしいことを伝えている。また、子どもが怪我をした時の対応や、転校の件なども説明している。入園後も「生活の手引き」を活用し、説明を行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもや保護者など入園希望者に対しては、必要な情報を提供するとともに、「生活の手引き」により、生活のルールや面会の決まり、園のルールなどを丁寧に説明し、遵守してほしいことを伝えている。説明は子どもたちの個々の状況に配慮して、柔軟に行っている。子どもが中学校から高校に進学する際には、特別支援学級に行くのか、普通学級に行くのか、あるいは就職するのか、子どもの意思を尊重して、最終的に本人が決定できるよう支援している。保護者にも連絡して、保護者の同意を得るようにしている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>

- 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。
- 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。

○

○

## 【コメント】

家庭支援専門相談員や職業指導員が中心になり、また児童相談所などと連携し、移行支援を行っている。中・高校生の入園が多く、家庭へ移行するケースは少ない現状がある。高校を卒業し、退園した子どもは、職業指導員や園長が相談やフォローを行っている。毎朝のミーティングで、子どもたちの状況を共有し、養育・支援の継続性を確保している。

## (3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

- ① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。
- 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。
  - 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。
  - 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。
  - 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。
  - 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。

a

○

○

○

○

○

## 【コメント】

子どもアンケートを実施する他、ユニットごとに「子ども会議」を開催し、子どもたちの意見や要望、満足度を聴いている。子どもたちからは、携帯電話を持ちたいとの希望が多く、アルバイトをしてまかなうよう話しているが、個人的にアルバイトができない子どもには、園から貸し出しを行っている。外出や外食の希望については、年間行事として計画している。ただし、今年度はコロナ禍で、招待行事を含め、実施できていない。また、個々の子どもの声は、ケース担当が定期的に聴き取り、職員間で共有が必要なものは、全体に周知するようにしている。

## (4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

- ① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。
- 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。
  - 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。
  - 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。
  - 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。
  - 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。
  - 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。

b

○

○

○

○

## 【コメント】

ホームページに苦情解決の仕組みを掲載する他、園内に意見箱を設置し、子どもたちがいつでも意見を表明できるようにしている。年1回、第三者委員が、希望する子どもと面接を行い、面接の結果は、研修会の中で全職員に伝える仕組みを作っている。また、近隣から「子どもの声がうるさい」などの苦情が出ることがあり、迅速に対応するようにしている。

- ② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。
- 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。
  - 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。

b

○

○

相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。

【コメント】

文書の配布などは特に行っていないが、日々の生活の中で、就寝時に職員が子どもの意見を聴くよう努めている。子どもからの相談は、まずは担当者が受けるようにしているが、誰に相談するかは自由なので、子どもたちは、園長に直接話したり、自分で相談する職員を選んでいく。相談スペースは特に設けていないが、内容によって相談室を使用している。夜間は一対一で話す場所の確保が難しいため、通常は子どもの入室を禁止している職員室で対応せざるを得ない状況である。

③ 36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。

b

職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。

意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。

○

相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。

○

職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。

○

意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。

対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。

【コメント】

園内に意見箱を設置する他、子どもアンケートを実施し、子どもが意見を述べやすい環境を整えている。職員は子どもから話ができれば傾聴するように努め、必要なものは全体に周知している。「職員の手引き」に苦情対応の規程を載せ、迅速に対応するよう努めているが、職員数の問題などで、不十分な部分もある。子どもたちの意見や希望のうち、養育・支援の向上につながるものは、できるだけ取り入れるようにしている。子どもたちの声を聴き、携帯電話の貸し出しなどを行っている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者  
評価結果

① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。

b

リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。

事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。

○

子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。

収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。

職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。

○

事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。

【コメント】

安心・安全のための委員会を作ることを検討しているが、現在、委員会が立ち上がるころまでは至っていない。事故発生時のマニュアルにより、園長及び副園長をリスクマネジメントの責任者としている。子どもによる暴力事件が起こっていることから、寮舎会議で対応を検討している。事故発生時のマニュアルに基づき、日々の養育・支援を行い、毎月開催する職場内研修でも事故発生時の対応を取り上げ、外部講師や児童相談所の職員を招き、改善策や再発防止の取り組みにつなげている。

② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。

b

感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。

感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。

担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。

<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

看護師を中心に、感染症対策の取り組みを行っている。感染症対策に関するマニュアルは整備していないが、今後は必要と捉えている。感染の予防として、掃除や消毒などのチェックリストを使用して、清潔の保持に努めている。月1回開催する職員会議の場で、看護師を講師として、感染予防の研修を行っている。感染症に罹患した子どもは、各ユニットの静養室で対応することとしている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

災害時のマニュアルに基づき、毎月、避難訓練を実施している。また、地域で行われる避難訓練にも参加している。防災バッグには子どもたちの名簿を入れている。災害時のマニュアルは整備しているが、安否確認の方法など、職員への周知が十分ではないと感じている。災害時に備え、栄養士を中心に食料や備品などを備蓄している。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

養育・支援についての標準的な実施方法は、「職員の手引き」に内容を示し、全職員が共通認識を持っている。「職員の手引き」は、毎年、内容を見直している。子どもたちへの関わりについて、必要時には職員にスーパービジョンを提供し、共通認識できるように関わっている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「職員の手引き」は、毎年、内容を見直している。子どもたちの自立支援計画は、毎年4～6月に児童相談所の担当者とともに見直しを行い、当該年度の計画を作成している。ただし今年度はコロナ禍により、児童相談所とは文書のやり取りで実施している。自立支援計画の見直しは、必要に応じて学校などを含め、関係機関と連携して行っている。子どもたちの大学や専門学校への進学や、家庭への引き取りにあたっては、慎重に対応するようにしている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	

【コメント】

子どもたちの自立支援計画は、担当職員がアセスメントに基づいて作成し、専門職の確認を経た後に、児童相談所の担当職員とカンファレンスを行い、具体性と客観性を担保しながら策定している。対応が困難なケース(親がアルコール依存症であったり、障害のある子どもが一般就労したいと希望する場合など)については、最終的には子どもの自己決定を尊重するため、多くの選択肢を提供するなどして、慎重に対応するようにしている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

子どもたちの自立支援計画は、担当職員がアセスメントに基づいて作成し、専門職の確認を経た後に、児童相談所の担当職員とカンファレンスを行い、具体性と客観性を担保しながら策定している。策定にあたっては、これまでの計画の評価、見直しを行っている。進路などの検討が必要な子どもは、関係機関と連携して計画を策定している。自立支援計画を緊急に変更する必要がある場合も、速やかに対応するようにしている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○



<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。		○
<b>【コメント】</b> 子どもたちの養育・支援の記録は、県の指針をもとに、統一した様式でパソコン入力している。記録方法や内容については、「職員の手引き」に記載し、統一した対応が取れるようにしている。新任研修の場でも、記録の方法を説明している。パソコンはユニット毎に置き、全体で内容を共有できるようにしている。		
②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○
<b>【コメント】</b> パソコンによる記録のシステム導入後に、管理が適切に行えるよう、記録管理体制を整備している。システムの責任者を園長とし、記録管理の責任者を家庭支援専門相談員とし、記録の管理体制を整えている。個人情報の管理については、「職員の手引き」に明記している。実習生やボランティアについても、個人情報の遵守について文書を提出してもらっている。子どもたちにも、「生活の手引き」にて、個人情報を守ることを伝えている。保護者には、面会時などに、個人情報の保護を口頭で説明している。		

## 内容評価基準（25項目）

### A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○
<b>【コメント】</b> 子どもの権利擁護は、パンフレットやホームページに明示している。また、「職員の手引き」に「春光学園職員倫理綱領」を明記している。「職員の手引き」は毎年4月に配布し、全体で読み合わせを行い、周知を図っている。園内研修では、家庭支援専門相談員が中心になり、「職員の手引き」を活用して権利擁護研修を行う他、外部講師を招き権利擁護の講義も受けている。権利侵害の防止として、職員間で情報を共有し、子どものアンケートなどを参考にして、話し合いを行っている。キリスト教精神に基づいて設立した園だが、信教については子どもたちに強要していない。引き取り手のない子どもたちの位牌を祀っている仏壇もあり、お盆やお彼岸には供養している。		
(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○

<input type="checkbox"/>	職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
<input type="checkbox"/>	年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

「子どもの権利ノート」は、入園時に児童相談所のケースワーカーが手渡し、子どもたちにいろいろな権利があることを説明している。内容について理解が難しい子どもが多いため、「生活の手引き」を作成し、わかりやすく説明している。また、障害のある子どもが多く、職員が繰り返し説明するようにしている。日常の生活の中では、担当との会話や「子ども会議」の中で、権利のことや弱い立場の子どもに対する思いやりなどを話し合っている。子どもたちからも、具体的な質問が出るようになってきている。

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
<input type="checkbox"/>	事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
<input type="checkbox"/>	伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
<input type="checkbox"/>	事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
<input type="checkbox"/>	成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもたちが、これからの人生をよりよく生きていくことを目的に、「ライフストーリーワーク」を、職員と一緒に、これまでの自分の生い立ちの整理に取り組んでいる。子どもの発達の状況により、伝えるタイミングや内容などに、難しさを感じている。子どもによっては、自分の生い立ちを受け入れ、ここでの生活を前向きに考えていくことができる子どももいるが、受け入れられない子どももいる。生い立ちの整理は、児童相談所のケースワーカーや保護者と連携をとりながら進めているが、保護者の理解を求めるのが難しい場合もある。子どもたちは、一人ひとりアルバムを持ち、職員と一緒に、成長の過程を振り返ったり、将来について話をしたりしている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/>	体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
<input type="checkbox"/>	不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	
<input type="checkbox"/>	子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

「職員の手引き」に「春光学園職員倫理綱領」を明記し、不適切な関わりの禁止を細かく示している。また、園内研修などで、不適切な関わりの防止について具体的に話し合いを行っている。子どもに対する言葉遣いで気になることがあった時は、職員同士で注意し合うことにしている。また会議などで、不適切な関わりがどうして起きたか、主任や副主任が報告し、職員間で改善策を検討している。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

食事は各ユニットでご飯を炊き、職員と一緒に摂っているが、子どもたちは炊き立てのご飯のおいしさに感動している。入園初期の子どもは、炊き立てのご飯が珍しく覗き込んだりしている。自分専用の茶わんやコップ、お箸などを決めているので、子どもたちは大切に扱い、食事場面が心地良い場所であることを体験している。各ユニットの「子ども会議」では、子どもたちの希望を聴き取り、できるだけ添えるよう対応している。希望通りできない場合は、何故できないか理由を説明している。子どもたちは小遣いの使い方を職員と一緒に考え、各自が出納帳をつけている。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入園時には、児童相談所や学校などと事前カンファレンスを実施するとともに、全職員が子どもを把握し、子どもの不安を解消するよう努めている。自宅での入浴経験がなく、お風呂に入ることができない子どもや、コミュニケーションが難しい子どもに対して、園での生活に心地良さを感じることができるよう、時間をかけて丁寧に関わっている。子どもたちは失敗を隠すことが多いため、失敗をしても叱らず話を聴き、安心感が持てるよう関わっている。以前は濡れたパンツを隠していた子どもが、失敗したことを訴えてくるようになってきている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

年齢に応じて退園後の生活を話し合っている。職業指導員が退園に向けたサポートを担当し、退園時には児童相談所や保護者との打ち合わせ、就職先との連携など、スムーズに生活を移行できるようにサポートしている。子どもたちの就職先には、職業指導員が定期的に電話をして、状況を確認している。就労先の変更で、退園後も子どもと一緒にハローワークに行くこともある。退園後の支援は、職業指導員だけでは対応しきれないため、園での担当者も支援を行っている。園の歴史が長いので、退園児すべての対応は、十分に行えていない現状がある。

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

自分の欲求や訴えを言葉ではなく、怒りでしか表現できない子どもが多い。他の子どもや職員に危険がある場合は、すぐに危険を回避するよう対応している。不安定な子どもの影響で、他の子どもが興奮してしまったりすることもある。子どもが落ち着いてから、じっくり話を聴くようにしているが、現状では困難な場合も多い。入園時はおとなしい子どもも園に慣れ、万引きや恐喝、盗難などの行動を繰り返し、その子どもの本当のところが理解できず、児童相談所と連携して対応したこともある。子どもだけでなく、職員も傷つき、疲弊してしまうことがある。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	

【コメント】

ユニット内の食事は、食欲を満たすだけでなく、楽しい食事になるよう職員が工夫して関わっている。関わりの中で、小さい子どもも、今は食べ散らかすこともなく、スプーンや箸を使い、食事を楽しむことができるようになってきている。お風呂もゆったりと職員と一緒に安心して入り、入浴することの快適さを感じながら、職員との信頼関係を作り上げている。愛着関係の再構築を重視し、職員は一人ひとりの子どもに寄り添って、日々の生活を支援している。月1回、子どもとの個別面接を行い、また担当職員が子どもと外出する機会を設け、個別に話す機会を作っている。子どもたちとの触れ合いを大切にしている。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	

【コメント】

「生活の手引き」の中で、子どもたちが自分でやらなければいけないことを示し、職員は子どもたちの様子を見守るようにしている。子どもたちが自分でできないところは、職員と一緒に行って、自分でできるよう働きかけている。できたときは子どもを誉め、次の行動につながるようにしている。「生活の手引き」については子ども会議の中で話し合い、失敗したことや、その原因などを話し合い、今後の取り組みにつながるようにしている。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

幼児のユニットには、年齢に応じたおもちゃや絵本などを備えている。現在、幼稚園に9名が通園し、3名は発達の状況により、園内や園庭で好きな遊具を使って遊んでいる。学童ユニットには、年齢に応じて本などを整えている。小学生は学校の友だちが遊びに来たり、友だちの家に遊びに行ったりしている。中学生はほとんど部活をしており、園に帰ってから学習に取り組んでいる。地域の行事へ参加できるよう、また園内で行事を企画し、楽しみの持てる環境を作るよう努めている。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

入園時には、食事は手づかみでしか食べることができない、家では入浴をしていないなど、基本的な生活習慣ができていない子どもが多いため、食事は箸やスプーンを使って食べるよう指導し、入浴の快適さを感じてもらうため、時間をかけて身体を清潔に保つことを理解してもらうよう関わっている。子どもたちが日常生活の中で挨拶をし、人とのコミュニケーションを積極的にとっていくことができるよう支援している。高学年になると、「生活の手引き」で約束事や生活のルールなどを示し、子ども会議の中で話し合いを行っている。高校生はアルバイトを通し、社会性を養っている。ほとんどのアルバイト先が子どもを理解して、協力してくれている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>

定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。

基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。

【コメント】

栄養士と食育委員会の職員が連携し、「家庭での食事経験が少ない子どもたちに、心も体も満たされるよう、食事を提供していく」ことを目標にして、日々の食事を提供している。子どもたちからはアンケートをとり、希望を献立に反映している。月毎の誕生者にはリクエストメニューを出してもらい、希望する食事を提供している。また幼稚園に通う子どもには、マリオやピカチュウなど、かわいいキャラクターのお弁当箱を持たせ、人気がある。年間行事食を提供し、ユニット調理では、子どもと一緒に献立を決め、買い物や調理、後片付けを体験している。また栄養士が中心になり、おやつ作りも行っている。男の子子どもが海でアジやサバを釣ってきたものをさばき、自分たちで食べたり、園庭で野菜作りを行うなど、食育に力を入れている。

(3) 衣生活

①

A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。

b

常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。

汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。

気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。

洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。

衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。

発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。

【コメント】

子どもたちは季節に合った、その子どもに合った清潔な衣類を着用している。幼児は、好きな洋服を職員と一緒に着替え、洗濯は職員が行っている。学童ユニットでは洗濯指導を行い、子どもたちは自分のものを洗濯して、自分で管理している。そのための洗濯機や自室のタンスなどは十分に整えている。季節ごとの衣服の入れ替えは、職員と一緒にいき、担当の職員と買い物に出かけ、自分の好みの洋服を買い揃えている。大型の布団乾燥機が数台あり、夜尿のあった布団を乾燥して、清潔を保つようにしている。

(4) 住生活

①

A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。

b

子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。

小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。

中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。

身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。

食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。

設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。

発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。

【コメント】

園舎は明るく清潔に保たれている。共有部分の掃除は、チェック表などを使い、清潔を保っている。ごみなどが落ちている場合は、気付いた職員が拾っている。3階建てであるため、階段の手すりにまたがり、すべって遊んでいるうちに落ちて怪我をした子どもがいたため、手すりにガードを付け、またがらないように工夫している。中・高校生のユニットは、個室か2人部屋とし、学習や睡眠を落ち着いた環境で確保し、プライバシーも守ることができるようにしている。ユニット毎のリビングで、子どもたち全員が、食事をしたり遊んだりしている。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

看護師が医療機関と連携し、子どもたちや職員の健康状態を把握している。51名中37名の子どもが様々な疾患を抱えているため、市内の医療機関に定期的を受診している。また、突発の病気などで、受診をする場合もある。受診に際しては、看護師一人に対応しているが、危険防止のため、ドライバーや付き添いの職員が必要と感じている。服薬が必要な子どもが多く、看護師が薬を管理し、朝夕の服薬は職員が行っている。看護師は毎朝すべてのユニットを巡回し、子どもの状態を確認して、職員と情報交換を行っている。また、職員の健康診断では、多くの職員が健康に問題を抱えていることから、今後の対応が必須と捉えている。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

性教育委員会を置き、定期的に職員間で情報交換を行っている。委員が中心になり研修会を企画し、職員の中から意見を聴いて職員全体で考えていくことにしている。子どもたちには、「ハッピークラブ」という集まりを開き、年齢に応じた性教育を行っている。小さい子どもには、「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」があることを伝え、「ふわふわ言葉」を使ったときの気持ちを確かめている。小学生には、プライベートゾーンを説明し、実際に水着の着替え方などを例にして話をしている。思春期の子どもは、親に捨てられた空虚感から性行為に走ることもあるため、自分を大切にすることを、皆で話し合っている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

園での生活に慣れない時期には、暴力や暴言が多いが、まず危険を回避すること、どちらの話も聴くこと、小さい子どもを守ることを中心に対応している。子どもたちには、園長から暴言や暴力は許されないことを伝え、子ども会議の中でも、話し合いを行っている。自分の気持ちをコントロールすることが難しく、暴力行為で職員が怪我をしたことがある。児童相談所と検討し、一時保護となったが、その後、暴力はいけないと理解し、職員に謝ったケースがある。子どもだけでなく、職員も心に傷を負うこと、悩むことがある。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
---	--	---

<input type="checkbox"/>	問題が発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
<input type="checkbox"/>	生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
<input type="checkbox"/>	暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

「生活の手引き」を活用し、暴力の禁止や小さい子どもをからかうこと、人の物を勝手に使わないこと、その他生活の基本的ルールについて、ユニットの子ども会議の中で話し合いを行っている。事故があった場合などは、園長から子どもたち全体に注意している。子ども一人ひとりが抱えている問題は大きく、暴力や暴言などの行動につながっていると思われることが多い。今も、大きい子どもが小さい子どもを小突いたり、支配したりするなどの問題がユニットの中にある。問題が大きくなった場合は、児童相談所の協力を得るようにしている。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
<input type="checkbox"/>	施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
<input type="checkbox"/>	心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
<input type="checkbox"/>	職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	
<input type="checkbox"/>	心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
<input type="checkbox"/>	児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	

【コメント】

心理士が12~13名の子どもを担当し、心理療法を定期的に行い支援している。本来であれば、すべての子どもに対し心理的支援が必要であるが、1人では現在の状況でいっぱいである。児童相談所のケースワーカーや園の家庭支援専門相談員、心理士、担当職員、里親相談員にて自立支援会議を開催し、計画を作成している。心理室での定期的な子どもへの関わりは面接ではなく、遊戯療法で子どもの今の心の中を引き出して支援につなげている。遊びの中で虐待の場が出てきたり、人への関心がないという場面が見えてきたりする子どもが多い。心理士に対しても、スーパービジョンの体制があると良いと感じている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
<input type="checkbox"/>	学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別の学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
<input type="checkbox"/>	学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
<input type="checkbox"/>	忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
<input type="checkbox"/>	障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】



小・中学生では11人の子どもが特別支援学級に、高校生では2名の子どもが特別支援学校に通い、課題のある子どもが多い。学校と連携し、また、市から学習ボランティア（元学校の教師）の派遣を受けている。個別学習の場を定期的に設定していることから、子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいる。子どもたちも「自分が大切にされている」という安心感からか、他人に対して信頼感を育てている。高校の受験を控えた子どものうち、市内の塾に通っている子どももいる。ボランティアの支援により、ピアノや書道などを習っている子どももいる。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

日々の生活の中で、どのような方向に進みたいか、職員が子どもの気持ちを聴いている。家庭支援専門相談員や職業指導員も加って、子どもたち一人ひとりの進路を決めている。自分の学力が理解できず理想を追う子どもや、どうしていいかわからない子どもがいるため、後援会主催の「キャリアカウンセリング」を、大学の専門の先生を招いて、定期的に開催している。「キャリアカウンセリング」では、大人になるということ、自分はどんな大人になりたいか、それにはどうしたらよいかなど、前向きに将来を考えられるよう関わっている。「キャリアカウンセリング」を通して、自分のやりたいことを確認している子どもも多い。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちには、高校生になるとアルバイトを奨励している。市内のファーストフード店やガソリンスタンドなど、園を理解してくれている受け入れ先がある。子どもたちは、アルバイトを通して、社会性や人間関係などを学んでいる。子どもたちには、目指している職業に必要な資格取得方法の情報も伝えている。アルバイトを自分で見つけることが難しい子どもには、アルバイト先に行ったり、履歴書の書き方や電話のかけ方を指導している。アルバイトで得た収入は、ほとんどの子どもが卒園後のために貯金している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切ななかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>

子どもに関する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。

【コメント】

家庭支援専門相談員が、家族との連携をとっている。園の行事や幼稚園・学校の行事などを家族に連絡して、参加を促している。家族から子どもとの外出や外泊希望がある時は、担当職員や家庭支援専門相談員、児童相談所のケースワーカーが家庭を訪問して、子どもが安心して外出や宿泊ができるかを事前に確認している。家庭支援専門相談員は、児童相談所などとケースカンファレンスを行い、家庭訪問を通して家族再構築を実践している。

(11) 親子関係の再構築支援

① A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。

a

家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。

面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。

児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。

【コメント】

家庭支援専門相談員が中心になり、自立支援計画を基に、児童相談所と連携して、家族との再構築に取り組み、面会や外出、外泊などの調整を行っている。子どもたちは母親のところに帰りたい気持ちがあるが、受け入れ側が難しく、16年間、園で生活している子どももいる。自分より下の子ども（弟や妹）が家庭で生活しているのに、自分はなぜ帰ることができないのかなど、子ども自身が悩み苦しんでいることが多い。